



切実な区民要望の実現を

日本共産党北区議員団が予算組み替え動議

日本共産党の組み替え動議 (主なもの)

- 区有施設、区有地活用による認可保育園の定員増と保育士の処遇改善
- 認証保育所の保育料補助の拡充
- 学童クラブの待機児解消に向けた増設と人員配置を行うこと
- 小・中学校での就学援助前倒し支給の実施、母子福祉応急小口資金貸付制度の積極的活用、学校給食の無償化を第3子からスタートさせるなど子どもの貧困対策・未来応援
- 学校司書拡充と日本語適応指導員の増員
- 国民健康保険料の大幅な引き上げを緩和する均等割引き上げ額軽減措置
- 介護予防・日常生活支援総合事業における介護事業所への支援拡充
- 障害者就労支援事業委託法人への補助増額
- 民間空き家、賃貸住宅など活用した住宅要配慮者への家賃補助の実施
- ヘルシー入浴券の浴場組合への補助増額
- プレミアム付き区内共通商品券の増刷発行
- 住宅リフォーム助成の適用拡大
- 家具転倒防止器具無料配布継続、感震ブレーカーと耐震改修の助成拡充
- 浮間地域などのバス路線復活やコミュニティバスの新規路線検討など交通手段の拡充

提案理由説明に立った山崎たい子幹事長は、景気悪化や社会保障制度の改悪による負担増、年金・実質賃金の低下などにより区民のくらし・雇用は依然、厳しい状況が続く中、高すぎる国民健康保険料や医療・介護、教育

育費の負担軽減を求め、声は切実と強調。昨年、一昨年と日本共産党が提案してきた組み替え動議の内容は、新年度予算案で一部実現しているが、さらなる

区民生活と地域経済の支援、福祉、教育を充実するために予算の組み替えを求めるとのべ

22日の北区議会第1回定例会最終本会議で、日本共産党北区議員団は、北区の一般会計予算に対する「組み替え動議」を提案。切実な区民要求の実現を迫りました。(のの山けん)

野口まさと区議は、組み替え動議の賛成討論で、まちづくり基金のうち、区が新たに積み増す不要不急の十条まちづくり分10億円を財源に充てれば、これらの提案は十分に実現可能と強調しました。採決では、共産、新

豊洲移転の真相語れ

そねはじめ都議が石原元知事を尋問

20日、都議会百条委員会で石原慎太郎元都知事の証人喚問が行われ、そね都議が豊洲移転をめぐる東京ガスとの契約などについて追及。石原氏は「記憶にない」などと無責任な答弁に終始しました。



埼京線立体交差は「地下化」で

十条まちづくり特別委員会での議論から



都、北区、JRが発行する立体交差化計画のパンフレット

13日に開かれた区議会十条まちづくり特別委員会に、十条付近の連続立体交差化計画に關し、高架化に反対する人に納得のいく対応をすることなどを求める陳情が出されました。この審査の中で、日本共産党の野口まさとも議員は、「都が示した高架化ではなく地下化で施工すべき」と陳情への賛意を表明しましたが、これに対し公明党の委員が「立体交差

化計画の構造形式については、平成26年に可決した区議会決議で決着済み。共産党がいまさら『地下化で』というのはおかしい」などと発言しました。委員会では、本田正則議員と私が、これに反論しました。

構造形式は明記せず

「JR埼京線十条駅付近の連続立体交差事業の早期実現に関する決議」は、区民の「悲願」である立交事業の早期実現を求めることが趣旨であり、構造形式については「適正な構造形式により」とされています。この決議の元になった陳情の審査で、日本共産党は「適切な構造形式は地下化だと明記

住民の声に耳傾けるべき

した方がよい」と提案。これに対し、当時の副区長が「適切な構造形式とは地下化だけを指すものではない」と答えたことから、党区議団は決議の採決時に棄権退場するという態度をとったのです。当時から「地下化で」との日本共産党の主張は一貫しています。

区政70周年

北区が記念式典

今年で区政70周年を迎える北区。15日に北とぴあで記念式典が開かれ、昔懐かしい写真などが紹介されました。

